

# 3歳児研究会

## 研究経過

	期日	テーマ及び内容	俯瞰図番号	人数
1	5月21日(水)	「3歳児・不安と混乱から自己発揮へ」 講師 小林 愛子先生(戸山幼稚園教頭)	C1 - II	79
2	6月18日(水)	「3歳児の自我・自己主張」 講師 水越 美果先生(横浜隼人幼稚園園長)	E4 - II	85
3	9月17日(水)	「3歳児の自己主張を受け止め、仲間関係をつくる援助」 講師 長瀬 薫先生(中野幼稚園副園長)	C1 - II	70
4	10月15日(水)	「3歳児の仲間意識の深まり」 講師 孺杉 真由美先生(須賀白百合幼稚園副園長)	C1 - I	55
5	11月19日(水)	「3歳児の育ちと3学期の見通し」 講師 櫛渕 洋介先生(ちぐさ幼稚園園長)	C3 - I	69

### ◆研究参加園(35園)

江川幼稚園	川崎ふたば幼稚園	若宮幼稚園	ゆりかご幼稚園
大師幼稚園	女躰神社幼稚園	梅園幼稚園	小峰幼稚園
鹿島田幼稚園	サクラノ幼稚園	宮内幼稚園	つぼみ幼稚園
新城みらい幼稚園	諏訪幼稚園	洗足学園大学附属幼稚園	若竹幼稚園
川崎めぐみ幼稚園	たちばな幼稚園	津田山幼稚園	梶ヶ谷幼稚園
川崎たまがわ幼稚園	有馬白百合幼稚園	初山幼稚園	さぎぬま幼稚園
ひばり幼稚園	潮見台みどり幼稚園	丸山幼稚園	菅幼稚園
東菅幼稚園	桐光学園みどり幼稚園	桐光学園寺尾みどり幼稚園	柿の実幼稚園
川崎青葉幼稚園	こうりんじ幼稚園	ちよがおか幼稚園	

## 継続研究会

### 第1回 3歳児研究会

日時 平成26年5月21日(水)

場所 高津市民館

講師 小林 愛子先生(戸山幼稚園教頭  
幼少年教育研究所・発達と保育研究会)

テーマ:「3歳児の不安と混乱から自己発揮へ」

俯瞰図番号 C1-Ⅱ

### 年間研究主題

『3歳児の世界をのぞいてみよう』

—子どもの姿・育ち・あそび—

### ◎オリエンテーション

#### ○3歳児の1年間の発達変容

1期 不安と混乱期(4・5月)

2期 自己発揮期(5・6月)

3期 自己主張期(7・8・9月)

4期 仲間意識期(10・11・12月)

5期 自己充実期(1・2・3月)

- ・1～5期を理解することで子どもたちが成長していく先の見通しがたつ
- ・保育者が望んでいた姿が出ると喜びが変わる
- ・1年間で自己を確立できるように養っていく

### ◎バズディスカッションのテーマと発表内容

#### ①入園してからの子どもたちの変化

- ・泣いていた子が落ち着いてきた
- ・視野が広がり、周りのことに興味を持つようになってきた
- ・気の合う友だちが見つかり、一緒に遊ぶ
- ・支度ができるようになった
- ・入園当初落ち着いていた子が不安定になった

#### ②どんなあそびをしているか

- ・お絵描き
- ・粘土あそび
- ・ごっこあそび
- ・鬼ごっこ(先生が鬼)
- ・砂場あそび
- ・泥あそび、水あそび(裸足)
- ・お花つみ

(自分中心のあそびが多い)

#### ③保育者が困っていること

- ・排泄(トイレトレーニングのやり方)
- ・保育中に外へ出て行く
- ・手が出る子への対応(叩く・噛む)
- ・大きな声を出し、周りの子を驚かせる

#### ④どのように解決しているか

- ・おもらしの時間をデータ化し、その子の成長に合わせてオムツとトレーニングパンツを使い分ける
- ・外に興味を持たないように環境を工夫する
- ・手が出る子の側につき、配慮する
- ・いけないことを伝える
- ・保護者との連携をとる

### ◎講師の先生から

- ・母子分離の影響で泣く子が多い
- ・今の子どもたちの現実を知り、保育者の対応を考えていくことが大切

#### ○1期の特性

- ①言葉が少ない
- ②認識の不足
- ③感覚的なあそびが好き
- ④友だちとのつながりは薄い
- ⑤アニミズム的(理屈ではなく物に心があるように伝えていくと理解しやすい)  
『教師との信頼関係に支えられ自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となる』(教育要領)
- ・1期は初めて会う人や場所へ不安を感じ、生活の仕方の違いで混乱している時期なので、その中で保育者との信頼関係を築き、安心感を持つことで視野が広がっていく

### ◎VTR(自己発揮期の子どもの姿)

- ・あそびの中で何でもやりたがる子がいる
- ・五感に訴えるあそびを楽しむ
- ・1人1人の子との信頼関係を結ぶ3つの観点
- ①幼児の行動に温かい関心を寄せる
- ②心の動きをキャッチする

③答えを与えるのではなく、一緒に考える

○2期の特性

①感覚・感触を好む

②興味・関心を持つ

③じっくり物と向き合う

④自分を表出する（表現する）

⑤周囲の刺激を受ける

⑥みんなと一緒に活動を楽しむ

- ・視野が広がり、興味・関心が出てくる（自己発揮）

◎この時期の保育者の関わり

- ・水、砂、粘土、音など感覚を楽しむことを保育の中に取り入れる
- ・あそびが長続きしないので、子どもが選べるように物を沢山出して選択肢を増やす（自分の意思が出せるようにする）
- ・人の物を欲しがることが増え、物の取り合いでのトラブルが増えるので、保育者が仲介に入りお互いの気持ちを代弁する（他者確認をして、自分だけではないことを知る時期）
- ・集中力が短い分、展開を早めにして保育者が工夫しながらあそびを進めていく
- ・1期では子どもの全てを受け入れ依存させてあげることが大切だが、集団生活の中にはルールがあることを丁寧に伝えていくことも必要
- ・なぜいけないことなのか「ダメ」の意味を伝え、秩序を教える
- ・あそびの中で終わりがわかるよう、回数を伝えたり、「これをしたらおしまい」と決めると良い

◎保育者に必要なこと

- ・アイデンティティー（自分らしさ）が根づく時期なので、自己発揮させてあげられる環境を作る（時間・空間・仲間の3つの間が大切）
- ・自己発揮していない子はできるように導いていく
- ・分かりやすく、ゆっくりと、丁寧に、短い言

葉で伝える

・アニミズム的に伝える

・間合いを取りながら言葉がけをする

・五感に訴えるように視覚を通して伝える

・特性を理解して、保育を組み立てる

◎保護者対応

- ・第1子の方の場合は、この時期保護者にとっても不安と混乱期なので、保護者を支え、安心させてあげることが必要
- ・子どもの良い所を沢山見つけ伝えていき、その子に応じて対応の仕方を変えていけるようにする

第2回 3歳児研究会（新任研と合同）  
日時 平成26年6月18日（水）  
場所 川崎市中原市民館ホール2階  
講師 水越 美果先生（横浜隼人幼稚園園長  
幼少年教育研究所・発達と保育研究会）  
テーマ：「3歳児の自我・自己主張」  
～環境づくりと保育者の役割～  
俯瞰図番号 E4－Ⅱ

- ◎はじめに 発達変容の振り返りをする
- ・Ⅰ期は母子分離や時間の流れ・環境が変化したこと不安定になる
  - ・Ⅱ期は保育者が子どもの思いを受け止めてきたことで少しずつ安心する、物に対して興味を持ちやりたいことを見つけて動き出す
  - ・Ⅲ期は物から人への興味を持つようになる
  - ・Ⅳ期は自分たちは仲間だという意識を持つ
  - ・Ⅴ期は3歳児なりに集団の中での人付き合いの仕方を学ぶ
  - ・子どもの構造には意味があり、次の成長段階を理解し、見通しを持って保育する
  - ・発達変容を考えながらの保育の展開の仕方は4・5歳児にも当てはまる

① VTR&TALK（グループで行う）

- ◎水あそびや泥あそびをしている姿を見て、子どもたちはどんな気持ちで何を楽しんでいるかを考える  
（木に水を掛ける、ビニール袋に水を入れる、ポストに泥水を掛ける行動を見る）

○バズ発表

- ・水・泥あそびが好き
  - ・水を運ぶ、入れることが楽しい
  - ・水の流れや感触を楽しんでいる
- 講師の先生から
- ・Ⅱ期の特性を振り返る
  - ・やりたいことを我慢させると苦しくなる
  - ・自分が楽しいと思うことを確かめる時期なので、十分にやらせてあげることが必要

- ◎自分が担任だったらどう行動するか考える

（滑り台に泥を擦りつける行動を見る）

○バズ発表

- ・自分だったら遊ばせたいが、他クラスの先生にはどう見えるのか気になる
  - ・泥を塗って遊ぶことは楽しいが、滑り台は滑って遊ぶ本来の遊具の使い方を教える必要がある
  - ・基準は園の方針で決まるが、保育者があそびを止めることでやりたいことを奪ってしまう
  - ・遊具を使いたい子もいるので、困っている子の気持ちを保育者が伝える必要がある
- 講師の先生から
- ・子どもの気持ちに共感すると同時に相手が困っていることを伝える必要がある
  - ・あそびを終わらせることはできるが、子ども自身が気づけるように揺さぶることが大切
  - ・声をかけながら秩序を教えていく

② VTR&TALK

- ◎新人の保育者が初めてクレヨンの指導をする姿を見て、自分だったらどうするかを考える

○バズ発表

- ・子どもからクレヨンを使って描きたいと思えるように声かけをする（塗り絵の台紙を用意）
- ・子どもの気持ちを聞きすぎて收拾がつかなくなったので、保育者のペースで保育できると良かった
- ・伝え方を短く、端的に言えると良い
- ・声に強弱をつけながら伝えると良い

○講師の先生から

- ・子どもは自分の話を聞いてもらえるだけで満足するので、思いを受け止める
- ・子どもは早く描きたい、クレヨンを使いたいと思っているので、待たせないよう工夫しながら進めていく
- ・視覚、聴覚、感覚に訴えるような保育を行う

③ VTR&TALK

- ◎アイロンの取り合いをする場面を見て、子どもの気持ち、先生の対応を考える

○保護者、地域の方が入っても安心して見ていただける保育を実現する為にレシピを紹介していきたい。

◎幼児理解をする方法

①温かい関係作り

②1人1人の発達や個性に向き合う

③子どもの発達や成長を長期的視点で捉える

- 解釈を決め付ける、心理学者のように行動を分析する、一般化された基準だけで子どもの様子をチェックすることはやってはいけない
- 幼児理解とは直接触れ合い、幼児の言葉・表情・思い・考えを理解し受け止め、良い所や可能性を理解することが出発点である

◎幼稚園の自己評価の方法

○PDCAサイクルとは

Plan（幼児の姿に合ったねらい、内容の設定をすること）

Do（環境構成し、幼児と関わり、活動を展開すること）

Check（その指導は適切だったか、環境は良かったか評価すること）

Action（幼児の発達に必要な経験を得られるような指導、援助を適切に改善していくこと）

○PDCAを循環させ、保育の質を高めていく

↓自己評価をする前に

◎教員同士で幼児理解の姿勢をチェックする

- ①幼稚園の保育理念と一致しているか？
- ②同僚との協働、保育の相互理解はできているか？
- ③自らの専門技術は適切か？

◎自己評価の手順

- ①個々に保育を振り返る
- ②自己点検で気づいたことを学年、職員で出し合い認め合う。次に繋がる内容を話す
- ③園全体（園長先生参加）で行う、園全体で良くなったことを話し合えるようにする

◎幼児理解のお勧めレシピ

①ビデオでトレーニング

（新人保育者と子どもの様子を見て、自分が同僚だったら、どんなアドバイスをするか話し合う）

○ビデオを見ながら客観的な意見を聞くことで幼児理解の多様性を発見できる

②写真でトレーニング

（気に入った保育場面のショットを見て話し合う）

○写真を見ながら自分の保育目標が可視化できる

○子どもの何を撮るのか、何を理解して保育者が写真を撮るのか、幼児理解の方法としてラーニングストーリーが世界で注目されている

③ラーニングストーリー

- 1、関心を持っている場面
- 2、一定時間集中している場面
- 3、長時間やっているうちに今までと違うことが出てきた場面
- 4、他者とコミュニケーションを取る場面
- 5、自分の役割をしっかりと担っている場面

○5つのポイントを入れた写真を題材にして、自分の保育を反省しているならば、専門家や園長など保育を理解している方と一緒に見て客観的視点を取り入れることが必要である

④ロールプレイ

（困ったことを題材に役割演技を行う）

○自分たちの新しい改善方法を発見できる

◎ワークショップ「写真でトレーニング」

（3名1組のグループを作る）

①発表者はなぜこの写真を撮ったのか3分程度で語る（自分が気に入った所、子どもが活き活きとしている所、対応で困った所など）

②聞き役の先生は付箋に箇条書きをする

（良い点は緑色、質問疑問・改善希望点はオレンジ色）

③次の発表者も同様に行う

## 継続研究会

④発表者は両方の付箋を理解し、自分の保育の良かった所、改善する所などを整理し、課題として書き直す（自己評価の再構成）

### ○発表内容

- ・自由あそびの時間に異年齢の子どもたちが砂場でダイナミックに遊んでいる。年少組の子はじっと遊ぶ姿を眺めているだけだったが、自分からあそびに入っていたことが嬉しくて撮った写真だった
- ・その子の成長を保育者は発見できた

### ◎まとめ

- 写真はたった1枚で子どもの成長や園の方針まで語られる素晴らしい効果があるものなので自分の保育の振り返りに使用してほしい
- 幼児の行動を肯定的に見て、子どもの発達の姿勢をそこから読み取る訓練をすることで、自分の自己評価も正しい方向へと向いていく

## 第3回 3歳児研究会

日時 平成26年9月17日(水)  
場所 川崎市生涯学習プラザ大会議室(4階)  
講師 長瀬 薫先生(中野幼稚園副園長  
幼少年教育研究所・発達と保育研究会)  
テーマ:「3歳児の自己主張を受け止め、仲間  
関係をつくる援助」

俯瞰図番号 C1-Ⅱ

### ◎1～3期を振り返って

- 1期 不安と混乱期(4・5月)
  - ・新しい環境・母子分離の影響で心のなかが混乱し、緊張している(普段の様子と違う)
  - ・保育者に優しくしてもらうことで安心し、少しずつ落ち着く。気持ちが安定すると視野が広がり、興味を持ち始める
- 2期 自己発揮期(5・6月)
  - ・目の前にある自分のやりたいことを見つけ、動き出す時期
  - ・人とあそぶ感覚ではなく、あそびたいものが共通で同じあそびを楽しむ姿が多く見られる(並行あそびをする)
  - ・この時期に心配なのは、何もし始めない子である
- 3期 自己主張期(7・8・9月)
  - ・物から者(人)に興味を持ち始める
  - ・とても大切な時期である

### ◎ディスカッション①

(運動会で3歳児はどんな内容をするのか?)

- かけっこ・お遊戯・親子競技の3種が多い(その他に玉入れ・4色リレー・障害物リレーなどもある)
- リズムダンスは覚えることが大変で、並ぶ所にいることができない子もいる
- 昼食をとらず、早めに解散している

### ◎ディスカッション②

(自己主張期に保育をしていて、保育者が困ったこと、悩んだことは何か?)

- ・2学期になり、自分の場所・支度の仕方を忘れる、できることをやらなくなる
- ・並ばない、並んだ状態で歩けない
- 名札に順番のシールを貼る・背の順の表に子どものマークを張るなど工夫した
- ・片付けの時間になると切り換えができず、泣いてしまう
- ・何でも1番が良いという子がいる
- ・子どもの成長の差が出てきたので、できない子に注目が集まり、保育者に言いつける子が増えてきた
- ・悪知恵がつき、ものの取り合いをする
- ・「だって」「どうして」「でも」など保育者に対して言い返してくる
- ・保護者が園に慣れすぎて時間がルーズになる、休み中の生活リズムが直っていない、就寝時間が遅くなり、眠そうに登園する

◎VTR（自己主張期のVTRを5つ見る）

- ①9月（休み明け）の登園風景  
（嫌がって登園し、玄関で止まってしまうが、まわりの様子を見ることで少しずつ思い出ししていく）
  - ②アイロンと布を取り合う姿
  - ③夏休みにどこへ出かけたか、保育者が子どもたちに問い掛けている様子
  - ④ブランコの貸し借りする姿
  - ⑤虹・ミックスジュースを歌いたい子どもたちとトンボを歌わせたい保育者の様子
- 自己主張とは・・・
- ・子どもの世界ではとても大切なことである
  - ・人の中で自分を出すことで、人と自分を比べ自分を知ることができる（かけっこをする・絵をかくことも自己主張であり、人と比べて速いか遅いか、絵が得意か不得意かなど知ることができる）
  - ・人の中で生きる生物で、人と関わる中で自分とはどんな人間なのか学ぶことができる
- 自己肯定感とは・・・
- ・人は人、自分は自分で良いということを感じ

- ること
- ・自己主張をしないと“自己肯定感”を味わうことができない
- ・保護者や先生たちに共感してもらったことで満足し、そこから自分のやりたいことを見つけていく（この順番は大事である）

◎自己主張した子どもの姿

- ①1番にこだわる（特別でない不安を感じる、自分はここにいると言い続けている）
- ②言葉が増える（まだ使いこなす力はない）
- ③友だちに興味を持ち、何かをしてあげたくなる（おせっかいになる）
- ④ケンカが増える
- ⑤汚い言葉・悪い言葉を使う（まわりの反応が楽しく、共通の言葉を使いたがる）  
さまざまな言葉を学ぶ中でプラスの面、マイナスの面もある
- ⑥周りのことが気になる

◎自己主張期の保育者の関わり方

- ①自己主張できるあそびをする（おままごとやヒーローごっこなど）
  - ・みんなの前で発表できる。目立てる内容を考え、「ありがとう」と言ってもらえる場面をつくる
- ②自己主張が認められるようなゲームをする
  - ・椅子取りゲームで音楽に合わせて歩く、座るなどみんなのできるゲームをする
  - ・わざとやらない子がいても良い
  - ・みんなで一緒にやった時に少し目立てるゲームを考える
- ③子どもの代弁者になる
  - ・それぞれの子に対して「○○したかったよね」と気持ちを代弁する（子どもたちは今の時期適切な言葉が出てこない為）
- ④社会の橋渡し
  - ・「○○してくれてありがとう」と言われたたくて行動するので、子どものしたことを認めてあげる

⑤物の価値感

- ・命に関わることは子どもたちの行動の中でその都度してはいけないことを伝える
- ・おもちゃや自分の使うものを大切にすることを生活のなかで伝えていく

◎自己主張期後半の子どもたちと運動会をするにあたってのアドバイス

(子どもの発達に合わせて)

- ・よく動き回れるように出番を増やす  
(待たせないことが大事である)
- ・緊張からできなくなる子もいるので、子どもたちと一緒に走る、衣装を着て踊る  
(あらかじめ、親にも伝えておく)
- ・踊らなくてもいいように、衣装を身につけておくなど代わりのものを準備しておく  
(保育者の配慮が大切である)
- ・どのように運動会当日まで過ごすか、当日まで子どもたちの気持ちをどのように盛り上げるかは保育者次第なので、さまざまなことを想定し、当日に備えることが大切である  
(保育者の責任)

第4回 3歳児研究会

日時 平成26年10月15日(水)

場所 エポック中原

講師 甥杉 真由美先生

(須賀白百合幼稚園副園長

幼少年教育研究所・発達と保育研究会)

テーマ：「3歳児の仲間意識の深まり」

～環境づくりと保育者の役割～

俯瞰図番号 C1 - I

◎はじめに

○3歳児の運動会の認識

- ・初めての運動会に対して、何をするかわからないまま練習が進んでいく。
- ・当日は人が沢山来てくれて、ダンスをする姿を見て応援してくれたことや金メダルをもらって嬉しかったこと、家に帰ってから褒められたことなど経験したことすべてを含んで、運動会は楽しいと認識する。

◎バズディスクッション

(運動会明けの子どもたちの様子の変化)

- ・運動会ごっこを楽しむ。
- ・年中・年長組の踊りを真似する姿が見られた。  
(他学年の競技に興味を持つ)
- ・並ぶこと、前ならえが上手になった。
- ・達成感を味わうことができ、初めてのことに對しての免疫がついた。
- ・自分が一番だと言っていた子が、みんなで頑張ったことで、みんなが一番だと思えるようになった子が増えた。
- ・自己主張が強くなった。
- ・保育者がいなくても、集団あそびができるようになった。
- ・練習で仲良くなった友だちの顔や名前を覚えて、一緒にあそぶ。
- ・ルール・約束・順番を覚えることで、友だちを意識するようになった。



◎ VTR (仲間意識期の子どもの姿)

○ 仲間と関わる

- ① 段ボール(大きな段ボールの中に入って遊ぶ)
- ② キッズソーラン (他学年が踊った曲に興味を持ち、楽しんで踊っている)
- ③ ドミノ積み木 (積み木でドミノを作る)
- ④ フラフープ (年長組の真似をして、あそぶ)
- ⑤ ブランコ (ブランコの貸し借りがうまくいかない様子)

○ イメージの広がり

- ① プリキュアごっこ (頭や体に新聞紙やビニール素材のものを身につけ、同じイメージを持って、プリキュアになりきりあそんでいる)
- ② 朝の会 (保育者になりきって、朝の会を進めている、友だちも参加し、ごっこあそびに発展している)
- ③ 携帯電話 (紙、セロハンテープを使い、友だちの真似をして携帯電話を作っている)

○ ルールのあるあそび

- ① 椅子取りゲーム (一斉活動の中で初めて椅子取りゲームをしている)

◎ 仲間意識期の発達特性

(VTRの中から特性を探す)

- ① 友だちと一緒にいることやあそぶことが楽しくなる  
(・ 相手が何をしたいのか、わかるようになり、気の合う友だちと一緒にいる心地良さを感じるようになった。  
・ 人を意識するようになると、真似をしたい気持ちが生まれる。  
・ できることが増えると満足し、達成感を味わい、自信が持てるようになる。)
- ② イメージの共有・広がり  
(・ 子どもたちがプリキュアのイメージを持っていたので、よりあそびが楽しくなった。  
・ 保育者が用意しておいたものを自由に使えることでイメージの共有ができる。  
・ 周りの刺激を受けて、日常生活を再現するこ

とで、認識力が育つ。)

③ 技術の向上

- (・ やってみたいことが増え、体全体で繰り返すことで、体のバランス感覚が良くなる。  
・ 手先が器用になっている。  
・ あそびによって思考力が身につく。)

④ 言葉の発達が著しくなり、会話を楽しむようになる

- (・ 友だちの気持ちがわかるようになると、相手より優位に立ちたくなる。  
・ 羽目を外すことや意地悪をする場面が増える。  
・ 社会性が芽生えていく子どもたちとの関わりが重要なので、あそびのなかに入りつつ、保育者の価値感を伝えていくことが大切。)

⑤ ルールの理解ができるようになる

- (・ 長い説明は理解できないので、実践しながら理解できるよう、感覚的に伝えていく。  
・ ルールを守るとあそびが続き、より楽しくなることを学んでいく。)

◎ この時期の特性を活かしたあそびと保育者の関わり

- ・ じゃんけん、爆弾ゲーム、フルーツバスケットなど簡単なルールがあるあそびや言葉を繰り返返し、良いリズムで歌えるわらべうたあそび (わらべうたあそびは劇あそびにもつながり、みんなで揃ってセリフを言うことが上手になる)
- ・ 劇あそびは、七匹の小ヤギや大きなカブなど、繰り返しのセリフがある内容がおすすめである。
- ・ 言葉で教え込もうとせず、短い言葉で伝える。
- ・ 必要なことは1つずつ体で繰り返しやりながら覚えていく。
- ・ 友だちと遊べる環境をつくる。
- ・ 子どもたち自身で良い悪いを的確に判断していけるように関わっていく。

第5回 3歳児研究会

日時 平成26年11月19日(水)

場所 川崎市中原市民館ホール

講師 櫛瀨 洋介先生(ちぐさ幼稚園園長  
幼少年教育研究所・発達と保育研究会)

テーマ:「3歳児の育ちと3学期の見通し」

俯瞰図番号 C3-I

◎VTR(今の子どもの姿)

- 三輪車①(年少児が乗っている三輪車を年中児が無理矢理借りようとしている所に保育者が仲裁に入り、自分の気持ちを相手に伝えるよう促している)10月
- 三輪車②(3人で楽しくじゃんけんをして、交互に三輪車に乗っている場面を見た子どもが興味を持ち、一緒にあそんでいる)11月
- ごっこあそび(女の子がランドセルを背負い、学校へ行くことやお家ごっこを楽しんでいる)

◎バズディスクッション・発表

(どんなあそびをしているか?→あそびが面白い理由は何か?)

- じゃんけんの入っているあそび→ルールが理解できるようになって嬉しい
- ごっこあそび→役割を決めながら遊ぶことができ、劇あそびでは役になりきることができる。友だちとの関わりが増えて、楽しいことがわかるようになった
- マントや風呂敷を身につけて遊ぶ→物を身につけることで役のイメージが広がる
- のりやはさみを使った制作をする→手先が器用になり、集中が長続きするようになった
- 空箱を使って友だちと制作する→友だちと一緒にやりたいという気持ちが生まれ、イメージを共有しながら作り上げることができる
- けんけん→体のバランスが保てるようになった
- 椅子取りゲーム→勝ち負けを理解するようになった

- 鬼ごっこ→周りが見えるようになった
- どの園も、どの子どももそれぞれやっているあそびは違うが、なぜ面白いのかは共通の部分がある

◎これまでの子どもの姿

- 1期「不安と混乱」(安心できる場所、依存できる存在を探す)
- 2期「自己発揮」(安定すると周りにある物に興味を持つ、子どもたちがやりたいことができる環境を作ることで、興味・関心が広がる)
- 3期「自己主張」(周りにいる人の存在に気付く、クラスの友だちの前で認められたい思いから主張が強くなり、ケンカが増える、周りから認められるような環境を作る保育者の配慮が必要)
- 4期「仲間意識」(友だちと一緒にいることが楽しい、あそびのルールが分かるので面白さを感じている)
- 育ちとあそびはつながっている
- 子どもたちの育ちは個々に違うが順番がある。そこを理解すると見通しがつき、保育しやすくなる。
- 1、2学期の関わりがあるからこそ、3学期の成長につながっている

◎VTR(これからの子どもの姿)

- ①大掃除(1人ずつ雑巾を持ち、窓を拭いている。2学期の最後ということ意識し、話をする姿がある)
- ②かるた(自分で読める子がいる)
- ③福笑い(共通のルールを理解し、目を閉じて友だちの声を聞きながら遊んでいる)
- ④戦いごっこ(走り回ったり、アスレチックの遊具の登り降りをして、体を動かして楽しんで遊んでいる)
- ⑤にらめっこ(お互いやりとりをして、ゲームを楽しんでいる)
- ⑥型抜き(はさみを使い、集中して制作をする)

⑦お雛様・お内裏様（保育の組み立て、子どもとの関係性がしっかりしているので、楽しみながら制作に取り組むことができている）

◎5期の特性

○仲間関係の深まり

（お互いのことをわかり合って遊ぶ、やりとりを楽しんでいる、1・2学期に比べてみて仲間関係がより深まる）

○技術の向上

（集中力が続く、手先が器用になる、体の動かし方や力加減がわかるようになる、バランス感覚が良くなる）

○言葉が豊かになる

（使える言葉の数が増える、表現の幅が広がる、状況に応じて言葉を使いこなす）

3歳→700～800語

4歳→2000～2400語

○因果関係やルールがわかってあそびや生活の見通しを持つ

（原因・結果がわかる、共通理解ができ、あたりまえのことがわかる、違うことをすることで面白く感じる、自分で人を笑わせようとする気持ちが芽生える）

◎5期の保育者の関わり

○1人1人の育ちを認める

・この時期はできることが増えてきているのでさまざまなことをやってみたいという気持ちが出てきて、意欲的に行動する

・クラス全体が落ち着いてきているので、全体と比べてできていないと見るのか、その子の4月からの成長と見るのか保育者の視点が大切である

・意欲が増すことで、できることが増えていくので、子どもの力を信じて関わるようにする

○意識化

・先のことを言いすぎず、自分たちで考えられるように行動の意味を伝えていく

・子どもたちができることは全部できるように保育を組み立てる

◎5期のあそび

- ・お正月あそび（福笑い、かるた、こま、羽つき）手先の技術が必要なあそびなので、持っている技術を生かしやすい、チャレンジしやすい、子ども同士のやりとりやルールがある
- ・持っている技術を工夫できるような環境を作る

◎まとめ

○生活発表会、お遊戯会、作品展などの行事は子どもたちにとってチャレンジする所を作る、子どもたちの力を発揮させる方法を考える

○練習の中で、他の子と見せ合う時間を作る、踊りからイメージするものを作る、見せ方を工夫するなど行事に向かうまでの過程をどのように楽しむかで子どもの育ちも変化し、保育者としての技術も向上する

○3学期の子どもの育ちを一緒に楽しみながら保育をする